

## 「2024年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学工学部3年 鶴飼 諒一

私はこのプログラムに参加したことで、多くの考え方に変化が生じました。香港に行く前では、留学に対して漠然とした興味しか持っておらず、海外での生活に不安を覚えていました。留学を経験したことで、思っていたほどの危険はなく、得られるものが多いプログラムだと感じました。私が留学の経験で大きかったこととしては、現地の人との会話と、ルームメイトとの交流です。プログラム内の香港中文大学の授業内でも中国語を使ったスピーキングの練習はするのですが、現地の人に道を聞いたり、食事の注文をしたりする際に中国語を使うことで、スピーキングとリスニングの練習になりました。私のルームメイトは外国の方で、会話を英語で行ったのですが、自分が予想以上に喋れないことが分かり、机上と実際に大きな隔たりがあることを思い知りました。なので、英語の学習をよりしなければならぬと痛感しました。生活の面では、留学前に恐れていた生活習慣の衝突は起こらず、お互いに相手の生活習慣を尊重して暮らせることが出来、快適に過ごすことが出来ました。

大学での学習については、より勉強する必要性を感じました。今回の留学を経て、別の短期留学や大学院での海外留学に興味を持つようになりました。海外の多くの大学が留学する必要条件として、よいGPAであることが課せられています。そのため、GPAを上げるために、語学だけではなく、自身の専門科目も頑張ることを決めました。

香港での生活で苦労したことは、食事と天候でした。香港の食事は基本的に量が多く、食べきれないことがほとんどで、口にあう食事を見つけることにも苦労しました。また、食費が高いことから予想以上の出費がありました。香港の天候は、海に近いことから湿度が高く、気温も高いので、長い時間外に出ていると、体調を崩しやすかったです。また、体調を崩したときに大学内の病院に行った際に、自分の英語が相手方に伝わらず、薬をもらうまでに苦労しました。

香港中文大学での授業は、中級クラスを取っていました。そこでの授業は、大学で一年間学んだ自分としては、ちょうどよい難易度で、自分が苦手としていたスピーキングの練習の時間が多くとられていて、大変実りがある授業でした。香港中文大学の学生との共同発表は、香港の学生と交流することで、香港人の考え方を知ることが出来る貴重な機会でした。しかし、自分の発表は準備不足から上手く発表できなかったです。

香港での留学を経験して、海外での生活はそこまで不安を覚えるものではないことが分かり、香港の大学が研究に対して力を入れていることを知り、海外の大学院が一つの候補になりました。今までは漠然と同じ大学の院に進むことを考えていたのですが、選択肢が他にも多くあることが知ることが出来ました。なので、今から自分が何をしたいのかを考えて、将来について検討します。